

サポート

No. 196

令和5年11月14日発行

県教育庁特別支援教育課指導チーム

第22回 秋田県特別支援学校総合体育大会

「熱い戦い！この瞬間（とき）を楽しめ！」のキャッチフレーズのもと、「第22回 秋田県特別支援学校総合体育大会」が、9月15日（金）に秋田市の県立中央公園スポーツゾーン、県立体育館、あきた総合支援エリア、雄和体育館、秋田テルサで開催されました。県内の特別支援学校15校、中学校7校から参加した総勢1018名の選手が、日頃の練習の成果を発揮し、熱戦が繰り広げられました。団体競技の結果を報告します。

バスケットボール	男子	1位 能代支援学校	2位 栗田支援学校	
	女子	1位 ゆり支援学校	2位 能代支援学校	
ネオホッケー	1位 比内支援学校かつの校		2位 栗田支援学校	
グラウンドゴルフ	小・中の部	1位 由利本荘合同A (本荘東中、本荘北中、由利中)	2位 ゆり支援学校	
	高の部	1位 大曲支援学校せんぼく校	2位 稲川支援学校	
ピン倒しボール	小の部1位 栗田支援学校C	中の部1位 栗田支援学校B	高の部1位 能代支援学校A	HOME※1位 横手支援学校・小C
サッカー	1位 栗田支援学校		2位 ゆり支援学校	
ボッチャ	OP小・中	1位 ゆり支援学校B		2位 横手支援学校A
	OP高	1位 栗田支援学校B		2位 栗田支援学校C

※今年度新設されたピン倒しボールの「HOME」は、自校を会場に、オンラインで各校をつなぎ、競技を行う部門です。



フライングディスク

大会の様子



ネオホッケー



グラウンドゴルフ



ボッチャ



病弱教育の充実に向けて ～「病弱教育サポートセンターきらり☆」の取組～



令和2年度に秋田県内の病弱教育を推進するための中核的な拠点として、県立秋田きらり支援学校内に「病弱教育サポートセンターきらり☆」（以下サポセン）が設置され4年目となりました。この間、GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末やWi-Fi環境により、病気やけがで入院や自宅療養中の子どもたちの学習支援が大きく変化しています。今年度、サポートセンターで支援した高等学校のケースについて紹介します。

Aさんは手術のため3か月間、他県の大学病院に入院することになりました。これまでは、登校できない期間は欠席となっていましたが、学校教育法施行規則の改正で遠隔教育要件の緩和等が進み、在籍校でのオンライン授業が出席扱いとなりました。サポートセンターの役割としては、オン



【授業や休み時間、行事にも参加】



【病室と在籍校をつないだオンライン授業】

ライン授業に必要な機器の貸出しや接続テスト、病院との連携、入院中の生徒への心理面のフォローアップを行いました。オンライン授業の他、秋田大学の病児学習支援ボランティアを活用したことで、入院期間と重なった夏季休業中も、メリハリのある生活や大学生との学習を継続することができました。辛い手術やリハビリを前向きに乗り切り「充実した入院生活になった」と話すAさんからは、我々サポートする側が力をもちようとするとともに、地域や療育期間に関わらず、友達や学校とつながることが治療や復学へ向かう大きなエネルギーになることを実感しました。

（秋田きらり支援学校 教諭（兼）教育専門監 藤井奈緒子）

切れ目ない支援体制充実促進事業

令和5年度 トライアングル研修会 令和5年9月13日（水）

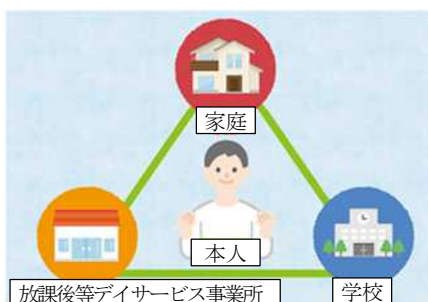
本研修会は、障害のある子どもの切れ目ない支援に向けた連携体制の構築に向けて、三者（保護者、学校関係者、放課後等デイサービス事業所関係者）の連携の必要性について理解を深める目的で開催いたしました。当日、オンラインでの参加の他、後日、オンデマンドで研修会のVTRを視聴した方を合わせると、14市町村から約100名の参加がありました。

【実践紹介】

「学校と放課後等デイサービス事業所の連携」の推進 ～令和4年度由利本荘市の実践から～
由利本荘市教育委員会 参事兼課長補佐 佐々木 紀子 氏

【シンポジウム】「切れ目ない支援に向けた連携体制の構築」

〈コーディネーター〉 秋田大学教育文化学部 准教授 鈴木 徹 氏
〈パネリスト〉 県立稲川支援学校 PTA副会長 中 川 茂 氏
通所支援事業所なないろ 児童発達支援管理責任者 高 橋 美紀子 氏
湯沢市教育委員会 主幹 佐々木 直美 氏



参加者からは、「三者それぞれの立場から、率直な意見や具体的な話を聞いて良かった。」「学校や教育委員会、家庭、放課後デイサービスが、子どもの健やかな育みを目指すという共通認識をもって連携していくことの大切さを改めて感じた。」「日頃からの関係性が基盤にあってこそその連携だと感じた。」という感想が寄せられておりました。

（特別支援教育課 主任指導主事 小野 武則）

おめでとうございます

「第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト 朗読部門」優秀賞受賞

視覚支援学校中学部3年生の 鈴木 稟々果さんが、「第40回NHK杯全国中学校放送コンテスト 朗読部門」で2位に相当する優秀賞を受賞しました。

7月に行われた秋田大会で、参加者33名の中から最優秀賞を受賞し、全国大会に出場しました。全国大会は、地区予選を突破した292校が参加、朗読部門には275人がエントリーしました。朗読部門の指定6作品の中から、鈴木さんが選択したのは、



さくらももこ著「もものかんづめ」から「奇跡の水虫治療」でした。

受賞を受けて、令和5年10月17日（火）に教育庁ホールで報告会を行いました。報告会では、実際に朗読を行い、その技術の高さを披露してくれました。

鈴木 稟々果さん おめでとうございます。



「第10回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」全国大会出場

令和5年9月24日（日）に鳥取県とりぎん文化会館で行われた「第10回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」に聴覚支援学校高等部が出場し、「手話パフォーマンス奨励賞」を受賞しました。

全国大会は、参加69チームから予選を突破した14チームで行われました。聴覚支援学校は初出場ながら、自分たち



が考案した「秋田県民歌の手話表現」と、手話作成までのエピソードの寸劇を披露しました。

聴覚支援学校高等部の皆さん、おめでとうございます。

なお、全国大会出場校の演技はYouTubeで見ることができます。下のQRコードから御覧ください。



〔手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル〕

